

「新しい戦前」なんて嫌ねッ

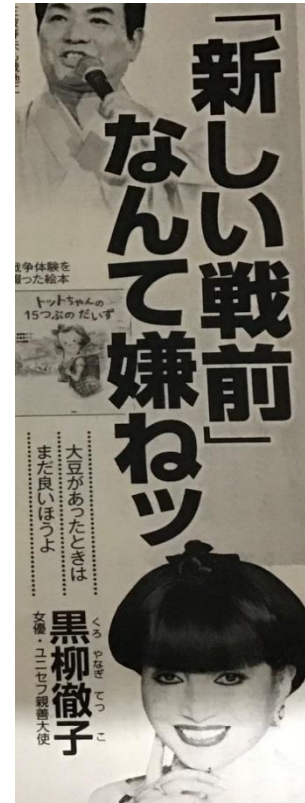
写真は『文藝春秋』9月号、黒柳徹子さんの戦争体験。日本のいまを考えるうえでも示唆に富むので、冒頭と最後だけ紹介したい。

2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、「戦争」というものが、すぐそこまで近づいてきていると感じます。この年の12月末かしらね。「徹子の部屋」にタモリさんが出演してくださったの。

覚えてらっしゃる方もいるんじゃないかしら。放送終了間際に、私が「来年はどんな年になりますかね?」と尋ねたところ、タモリさんはしばらくの間考えてから「新しい戦前になるんじゃないですかね」とお答えになったんです。

そうよね、やっぱりこの人も、戦争は嫌いだものね、絶対に。「新しい戦前」と彼が言ったのを聞いて、そう思いました。昨今の穏やかではない社会をみて、そう表現したのでしょう。タモリさんはいつも面白いことを言って人を笑わせていますが、それだけではない人。心の中ではきっと、戦争は絶対にしてはならないと思っていますよ。

もしあの時、タモリさんに対して私がなにか返すとしたら……「やあねッ」って答えたいわ。新しい戦前—そうよね、「やあねッ」って。その一言だけで、タモリさんには十分伝わるんじゃないかしら。



読者の皆様に気を付けていただきたいのは、戦争はほんとうに突然にやってくるということ。もちろん徐々に状況は悪化していたとはいえ、太平洋戦争も、今年のウクライナ侵攻も、始まる時はあつという間だったんですからね。

そして、そうこうしているうちに、個人も、テレビやメディアも、あつという間に何も言えなくなるの。その危機感は何十年もテレビに出ている私にもあります。若い人は私たちに「当時はどうして戦争に反対しなかったの」なんて言うけれど、言えるはずがなかったんです。当時はそんなことを言おうものなら、すぐに捕まってしまうから。平和を守るためには、何を言っても自由である社会にしておかなければならない。私たちテレビも、あなたたち「文藝春秋」もね。

これには加担すべきじゃないとか、これはやっては駄目だとか、そういったことを折に触れて発言していくべきです。自由にもものを言える社会が続くように心がけておかないと、社会はすぐ変わりますから。ほんとうに、すぐですよ。

(2023年9月8日)